

下参考



官圖一號

昭和四年三月六日

文部次官 栗屋



内閣書記官長 鳩山一郎 殿

本年一月三十一日付雑乙第一七號ヲ以テ皇統御代數ノ起算及肇國ノ紀元ニ關スル請願御回付相成候處別紙及回答候

文 部 省

供覽

内閣書記官

了

内閣書記官

内閣書記官



雑乙 一七

裏面白紙

以下参考

官圖一號

昭和四年三月六日

文部次官 栗屋



内閣書記官長 鳩山一郎 殿

本年一月三十一日付雜乙第一七號ヲ以テ皇統御代數ノ起算及肇國ノ紀元ニ關スル請願御回付相成候處別紙及回答候

文 部 省 供覽

内閣書記官 了

内閣書記官

内閣書記官



九雜乙一七

裏面白紙

文 部 省

「皇統御代數ノ起算及肇國ノ紀元ニ關スル請願」ノ趣旨ニハ同感ナリ
ト雖モ、神代ノ年數ヲ算定スルコトハ全ク不可能ノ事ニ屬シ、請願
ニイフトコロ亦固ヨリ確數ト認メカタシ。從ツテ明治五年神武天皇
ノ御即位ヲ以テ紀元ト定メラレタルヲ改ムヘキ要ナク、之ニ據レル
國定教科書ニ於テモ之ヲ改正スヘキ必要アラスト信ス。

裏面白紙

萬世一系ノ皇統御太元並ニ肇國ノ紀元ニ關スル請願

廣島縣安藝郡上瀨野村草葺之臣松永良作誠恐誠惶

謹ニテ惟ミルニ我大日本帝國

皇帝陛下ハ 天祖即千皇太祖

天照皇大神ヨリ神代人皇ヲ通ジテ萬世一系ニ連綿シ給
ヘルニ拘ハラズ從來コノ 皇統ノ御代號ヲ 人皇ノ祖

神武天皇ヨリ起算シ奉リ我國ノ紀元モ亦同帝御即位ノ年
ヲ以テ元年ト定メラレ給フモ 人皇ノ祖ハ 神代ノ祖ト

異姓ノ帝王ニアラセラレズ又其宗系ヨリ分レテ別ニ一國ヲ
立テサセラレタルガ如キ副系ニモマシマサズ 天祖ノ正系

タル皇室ニ御誕生遊バシテ御年十五ノ時 御父

鵜草葺不合尊ヨリ既ニ 皇太子ニ定メラレ給ヘル御方

ナレバタトヒ中州御平定ノ御事ナクモ我國ノ 天位ニ就

カセ給フベキ御資格ヲ有シ給ヘリサレバ 萬世一系ノ皇位ハ
神武ノ御偉功ニ依リテ初メテ羸ク得給ヒレニアラズ即千ツ

ノ御即位ハ甚ダ恐レ多キ例ナレモ鎌足ノ中臣氏ニ於ケルガ
如ク 君ヨリ賜ハリタル恩姓ニ依リテ藤原氏ノ祖トナ

レルガ如ク又家康ノ徳川氏ニ於ケルガ如ク新ニ重職ニ任セラ
レテ徳川將軍ノ祖トナリシガ如ク無資格ヨリ有資格ニ入ラセ

給ヒシニアラズ既ニ有シ給ヘル 皇太子ノ有資格ヨリ有
資格ニ入ラセ給ヒシモノニシテ無資格者ヨリ有資格者ニ

ナリ給ヒシニアラズ

試ニ 人皇ノ祖ノ御事蹟ノ大要ヲ他ノ 諸帝ノ御事

蹟ニ比シ奉ランニ先ツ

神武御東征ノ御壯攀ハ其御趣旨ニ於テ 景行ノ御西
征若クハ 仲哀ノ御西征ニ同ジ皆 皇祖ノ授ケ給ヒシ
國ヲ安ラカニ治メ給ハンガ為メニ國內ニハビコリタルマツ
ロハヌ者共ヲ討テ平ケ給ヒタルナリ即チ内乱ヲ御鎮定マ
シマシタルナリ決シテ最初ノ御創業若クハ領土擴張ノ
為メニ他國ヲ侵略シ給ヒタルニアラズ

又 神武ノ御遷都ハ其御道程ノ長サニ於テ 明治ノ
御遷都ニ同ジ而モ 天孫ノ高天ヶ原ヨリ筑紫ノ日向ニ
御遷都マシマセシ規模ノ大ナルニハ及バセ給ハズ

又 神武天皇御即位ノ御儀式ハ他ノ 歷代御即位ノ
御儀式ト同ジク 同帝萬歲ノ御即位式ニシテ決シテ萬
世ニ涉ラセラル、 皇位始メト云フ義ノ御儀式ニテハ

アラセラレズ皇國ノ 皇位ハ千早振ル神代ノ昔ニ於テ
世界人類ノ大祖先ニテマシマス

伊弉諾 伊弉册ノニ尊ガ——宇宙ノ萬有ヲ統宰シ給ヘル
天之御中主神以下諸ノ 天神ノ神勅ヲ承ケ給ヒテ——
國土ヲ開キ蒼蒼生ヲ生ミ而シテコレガ統宰ノ為ニ天下ニ
主トシテ生ミ奉リ給ヒシ 貴子即チ

天照皇大神御出現ノ御時ニ肇メサセ給ヒコノ 皇位ノ
萬世無窮ニ傳ハラセ給フコトノ御儀式モ既ニ 皇祖
皇大神ガ 皇孫ノ尊ニ 天津日嗣ノ御璽タル三種ノ

神器ト共ニ我大日本ノ國土ヲ授ケ給フ御時「天壤無窮」
御神勅ヲ以テ完全ニ行ハセ給ヒキサレバ 宮中ニ於カセラレ
テハ 皇孫瓊々杵尊以來御歷代ノ天皇何レモ

(念 製)

天照皇大神ヲ 皇祖ト崇メ奉リ祭祀ヲ慎ミ至大ノ
孝養ヲ盡シ給ヒ國民モ亦皆

伊勢大廟ヲ國家ノ總氏神ト唱へ奉リテ世々崇敬シ
祀リケレバソノ大祭日ハ往古ハ恰モ皇國ノ建國祭
即チ肇國ノ紀元節ニモ該當シタリシモノナリトモ
言ヒ得ベシ

次ニ御政治ヲ伺ヒ奉ルニ 神武ハ天上乃至日向朝廷ノ
御政治振ヲ一層ニ御整頓遊バシタレ氏ソノ御政體ノ祭
政一致タリシトイフ點ニ至リテハ 帝以前及ビ以後ハ朝
ノ間ニ異レルコトナシ故ニ政変トシテハ此御時ヨリハ寧
口 崇神ノ祭ト政トヲ區別シ給ヒシガ如キ 孝徳ノ
大化改新ノ如キ 後鳥羽ノ政治ヲ武門ニ委ネ給ヒシ

ガ如キ又近ク 明治天皇陛下ノ立憲政ヲ布キ給ヒ
シガ如キヲ以テ著シトスサレバ 崇神ノ御代六年迄行ハレ
タル我國最初ノ政體ハ 人皇ノ祖以前ニ溯リテ遠ク
天祖ノ御代ヨリ始マレリ

此外產業ノ基モ教育ノ淵源モ亦皆然ラザルハナシ
然ルヲ太古神代ノ事ハ渺漠トシテ及フベカラズトナシテ
是ヲ究メズ或ハ 列聖ノ御代號ヲ 中興ノ祖ヨリ教
へ奉リ或ハ又我帝國ノ紀元ヲソノ年代ノ途中ニ置キテ
殆アラユル場合ニ我國ハ 神武創業以來云々ト
稱フルハ我國ノ年齢ハ其古サニ於テ世界ノ立場ヨリ見テ
第二流トナルノミナラズ我 皇基ハ 大神ノ神勅ニ
依リテ確實ニ定マラセ給ヒシヲ 神武ノ御武威ヲ仰

キテ始メテ確實トナリシカト追疑ヒ奉リ若クハ 萬世
一系ノ皇位モ 神武ノ中州御平定ニ依リテ始メテ認
メラレ同時ニ 皇大神ノ神勅ガ有効トナラセラレタル
カノ如クニ伺ハレ即チ天為ハ人爲ニ見エサセラレソレト
引替ヘクニ一面ニ於テハ彼ノ長髓彦ヤ 大國主命ノ一
系ガ我國土ノ主權者トシテ却テ内外ヨリ

大統以上ニ認メラレ随ツテ我國體ノ金甌無缺ナル所
以ガ 人皇ノ祖以後ニ於テノミノ事ニ屬シ以前ニ於テ
ハ開闢以來幾度カノ革命アリタリシモノカノヤウニ
誤マラレ殊ニ 神武天皇ガ 皇祖ノ授ケ給ヒシ國ヲ
安ラカニ治メ給ハンガ為メニ起シ給ヒシ御東征ノ御壯
舉ガ一ノ侵略ニ見エ給ヒテ内外ヨリ我建國ノ基ガ外國

ノソレト等シク始祖ハ互ニ攻伐ノ結果最後ノ勝利者ト
シテ現ハレ給ヒタルモノカノ如クニ伺ハレテ内ハ將來國民ヲ
シテ我國體ガ史實上 君幹臣枝ノ 君臣關係ナルヲ
征服者被征服者ノ君臣關係ナリト誤解セシムルノ恐
アルト同時ニ外ハ外國ヨリモ亦我國ヲシテ軍國主義ノ
國ナリト疑ハシムル遺憾アリ

而シテ皇澤ノ直接ニ及ブ國土ノ範圍ハ 人皇ノ祖
以前ハ素ヨリナレドモ以後ト雖モ時代ヨリテ廣狹アリ
其位置モ皇都ノ位置ト其ニ時代ヨリテハ多少西東
ニ移動セリ即チ 皇祖皇大神ノ御時ニハ天ノ下ヲ悉ク
治メ給ヒ 皇孫瓊々杵尊ノ御時ニハ豊豆葦原ノ瑞
穗國ヲ悉ク治メ給ヘリ然ルニ日向朝廷ノ終リ頃ソノ

(全製)

中部以東 皇命ヲ奉ゼズナリシカバ 神武帝討テテ
コレヲ復シ給ヘリ夫ヨリ凡ソ十世ノ後東國及び西陸叛
キシカバ 景行帝討テコレヲ復シ給ヘリヨリテ
應神ノ御代 皇母神功皇后征韓以來韓土モ久シ
ク我屬國トナリタリシガ其後屢々叛キ 天智帝ノ
頃ヨリ遂ニ我國ヲ離レシガ 明治天皇ノ御時再ビ
コレヲ我國ニ併セ給ヘリ中世以後時ニハ國步艱難ノ
患アリ又國威大陸ヲ壓シタル盛アリ而シテ其後ニ於テ
更ニ海外諸方面ニ幾多ノ新領土ヲ加ヘサセ給フニヨリ現
在ハ世界屈指ノ大國ト稱セラルヘキ至ラセ給ヘリ然レバ
國家トイフ意義我ノ條件ニハ必ずシモ領土ノ廣狹ヲ
要セズサレバ今假リニ我國土ノ内ヨリ北州、朝鮮及び
其他ノ新領土ヲ除クモ日本帝國ハ日本帝國ナリ更ニ
其残りノ中ヨリ東國ハ中州ヲ除クモ日本帝國ハ
日本帝國ナリ
又帝都ノ位置モ必ずシモ國ノ中央ニ限ラズ現ニソノ
位置ノ東海道ニテモ可ナル以上ハ 人皇ノ祖以前ニソ
レガ西海道タリシトテ可ナルベキハ勿論タトヒ天外異域ノ
高天ヶ原タリモ可ナリサレバ 人皇ノ祖以後ニ於テ彼
ノ豊臣氏ガ我帝都ヲ大陸ニ遷サント畫シタルガ如キ
假リニ實現シタリシトスルモ我日本國ハ其場所ヲ中心ニ
我日本國ナリ
然リ帝都ノ位置ニシテ皇國土ノ範圍ニシテ國家ト云
フ意義我ノ條件ニ何等關係ナキコト斯クノ如シ況ンヤ

儀式ノ有無、制度ノ完、不完等ニ於テマヤ要ハ唯苟モ我日本民族ガ

萬世一系ノ至尊ヲ中心ニ戴キ奉リテ住スル所住シタル所 在シ得ル所 是レ我大日本帝國ナリコレヲダニ具備セバ遠キ神代ノ昔ト雖モ國家トシテノ資格ハ決シテ現在ニ劣ルコトナキヲ信ズルモノナリ

就テハ單ニ史實上、理論上ノミナラズ對外上殊ニ惡化シツ、アル現代思想善導上

萬世一系ノ皇統御代教ハ 皇統ヲ萬世ニ垂レ且ツ天壤無窮ノ御神勅ヲ以テ 皇位ノ御璽タル三種ノ神器ヲ御代々ニ傳授シ給ヒタル 皇元祖

天照皇大神ヨリ神代人皇ヲ通ジテ教ヘ奉ルコトニ

ナシ給ヒ隨テ肇國ノ紀元モ 皇大神ノサシ出給ヒシ

御時ト定メサセ給ヒ即チ紀元節日ヲ 伊勢大神宮ノ

大祭日當日カ 皇祖皇大神ニ因アル日——ソノ日ニ

於テ 皇祖皇大神ノ御神勅奉讀式ヲ行ハセラル、

等 上下攀テ 皇祖ニ大孝ヲ展ベ報本反始ノ誠ヲ

致シマツルト同時ニ國民ガ

皇室ニ對シテ寶祚ノ無窮ヲ祝シ奉ルニ極メテ意義

アル日——ニ選バセラレ尚コノ意味ニ於テ曆及ビ學

校教科書等ニモ改正ヲ施サレ

以テ天壤無窮ノ皇運ハ天地開闢ノ初ヨリ保有シ給ヘル

事實ト特ニ我 皇室ハ 大神ノ正衣冠ニマシマスニ

依リソノ尊嚴ノ絕對ニマシマス所以ヲ明示シ併テ

萬世一系ノ御代教ヲ直接中心ニ仰ギ奉リ得ル關係
ヲ皇別ノ民ノミナラズ神別、蕃別ノ民ノ思想ニモ及ボ
サセ給ヒ以テ我建國ノ始メハ世畀ノアラユル古國ノソレヲ
超越セル事實ヲ御表示アラセラレン事ヲ謹テ請願シ
奉ル

猶ホ 天祖御即位ヨリ 人皇ノ祖御即位ニ至ラセ
ル、迄ノ年教ニ關シテハ別紙年教調査書記載ノ如ク
調査致セリ本件ハ事

皇室ニ關シ且ツ國家肇國ニ關スル重大問題ナレバ
是ガ御実行ニ當ラセラレテハ更ニ宜シク臣僚ニ命ジテ
コレガ調査會ヲ御設置アラセラレン事ハ最モ至便ノ
方ナランカト愚考シ奉ル別紙

萬世一系ノ皇統御太元並ニ肇國ノ紀元ニ關スル圖及ビ
天祖御即位ヨリ 人皇ノ祖御即位ニ至ラセラル、迄ノ
間ノ御代教並ニ年教調査書相添ヘ併テ請願シ奉ル

昭和三年六月二十日

廣島縣安藝郡上瀬野村千六百四十三番地

平民 農 松永良作

明治拾七年八月二十五日生

天祖御即位ヨリ人皇ノ祖御即位ニ至ラセラル、迄ノ
間ノ御代数並ニ年教調査書

天祖天照皇大神御出現ヨリ 人皇ノ祖神武天皇御即位
ニ至ラセラル、迄ノ間ノ御代数並ニ年教ニ関シテハ
古来種々ノ説ハアレモソノ根據ノ精々正確ニ似タルモノ
ハ日本紀ノ「天祖降臨以來一百七十九万云々」トアルヲ

瓊々杵尊以來御三代ノ間ノ年教ト見テコレニ高天ヶ原ニ
マシマシタル 天照皇大神ノ御治世三十万年 天神祇（？）ト
神道大意

天忍穗耳尊ノ御治世二十五万年 （同上）トヲ通算シテ所謂
地神ノ御間ヲ五代トシソノ年教ヲ二百三十四万二千四百六十
七歳 拾芥妙（？）
神道大意トスルガ如クソノ年教ハ御代数ノ少ナ
ルニ比シテ極端ナル多大ノ年教ニアラザレバ 地神ノ

總代数ヲ五代一代ヲ平均人世ノ三十年ツハニ見積リテ
其間ノ年教ヲ僅ニ百五十年トセルガ如キ代数ニ比
シテ極端ナル少年教ナレバソノ何レニ據ルベキカヲ定ム
ルニ當リテ甚ダ困難ナルノミナラズ其年教ニ於テモ
共ニ首肯シ難キモノナリ

而シテソノ年教ノ精々首肯シ得ルモノハ日本紀ノ「百
七十九万二千四百七十餘歳」或ハ二百七十九万二千
四百六十七歳ト作ルトアルヲ其歳ハ

日ノ誤リナラントナシテ該歳教ヲ一百七十九万二千四百
七十餘日ト見ルガ如キモノニテ即チ此筆法ニテ推算セバ
前記高天ヶ原時代ノ五十五万年モ五十五万日トナル故ニ
地神五代ノ御間ノ總日教ハ通計二百三十四万二千四百七
十餘日ト見ラレコレヲ年ニ換算シテ 天祖御即位ヨリ

人皇ノ祖御即位前ナル甲寅ノ年迄ヲ六千四百十八年計
トスルガ如キモノナルカ若クハ 地神五代ノ意義ヲ彼ノ
世期ノ一世期ヲ百年トセルガ如クソノ五代ハ必ズシモ御代
數ニアラズシテ全ク世期ノ如キ謂ナラントナシ而シテ其一
代期ヲ一千年ト推定シテ 地神五代ノ御間ヲ五代期即千
五百年ト見ルガ如キモノニテソノ根據ニ於テハ何レモ才
ホロナル域ヲ脱スル能ハザルモノナリキ

然ルニ近時三輪義漁ハ其根據ヲ富士古文書ニ置キ
神皇紀ヲ著シテ神代ノ御代數並ニ年日ヲ記載スル概略
左ノ如シ

第一期 天之世 天之神七代 三十万日

第二期 天之御中世 日高見神十五代 六十七万五千日

第三期 高天々原世 天神七代 十八万五千日

第四期 豊阿始原世 地神五代 十七万八千日

第五期 宇家澗不ニ合須世、合須神五十一代ニテ二千七百四十

一年 同紀卷末ニ附録セル神皇御歷代表ニ載セル神ノ各御代別
年數ヲ合計スレバ二千七百四十四年トナル何レカ誤リナルベシ

右ノ内第一期ヨリ第四期迄ハ時代ノ長サヲ現ハスニ日
數ヲ以テセルニヨリ其日數ヲ其當時ノ年ニ直シテ第
五期ノ年數ニ合計スレバ神代ノ總年數ハ七千二百餘
歳トナル (七、二〇一
七、二〇四)

斯クノ如ク神皇紀ハ開闢原始ノ第一期天之世ヨリ日數
ヲ明記シ第二期タル天之御中世ノ肇ニ於テ既ニ天津日
嗣ノ大御神ノ御紋章ヲ定メサセ給ヒ且ツ左宗右守ノ大神
ヲモ置カセ給フ事ヲモ記載シアレバ我肇國ノ紀元ハ天地

開闢ト同時ニアルヲ勿論ナリサレド天之世ハ猶ホ屯蒙
 養正ノ時代ナレバ此時代ノ年数約壹千年(三十万日)ヲ
 紀元年数ヨリ除キ第二期ノ第一代 天之御中主大御
 神ヨリ起算セバ六千二百餘歳ヲ得但シ同紀ニ據レバ此ノ
 年数ハ三百日ヲ以テ一ケ年トナシタル年数ナレバコレヲ三
 百六十五日ヲ以テ一年トスル年数ニ換算スルハ我國
 ノ紀元年数ニ教フベキ神代ノ年数ハ實際ハ五千百年
 計トナル (五〇九九年
 五〇九九年七〇強)
 コレヲ以テ神皇紀ヲ見レバソノ根據トセル富士古文書
 ノ價值及ビ信用ノ如何ハ別問題トシテ(別ノ研究ニ讓ル
 トシテ)同紀記載ノ年数辻書ハ吾人ノ略々首肯シ得ル
 所ナリ

又故落合直澄ハ其著「太古史年歴考」ニ彼ノ日本紀所
 載ノ「天孫降臨以來一百七十九万云々」トアルヲ 瓊々
 杵尊以來御三代ノ間ノ年数ト見ズ 天神ノ大元祖ニ
 テマシマス 國常立尊以來ナル神代ノ總年数ト見テ且
 ツ古事記以下諸書ヲ引用シテ是ヲ 天神七代並ニ
 諾冊ニ尊等及ビ 地神五代ノ間ニ配分セルコト大略次ノ如シ

第一代	國常立尊	五万四千歳
第二代	國狹土尊	三万三千六百歳
第三代	豊斟滂尊	九十二万一千六百歳
第四代	湍土蒸尊 沙土蒸尊	二十三万八千二百三十歳
第五代	角杵尊 活杵尊	二十三万八千二百三十歳
第六代	大富道尊 大富皇孫尊	二十三万四百歳

第七代

(青檣城根尊
吾屋檣城根尊)

五万七千六百歳

以上神世七代合計一百七十七万三千六百六十歳

○現世

太祖

伊弉諾尊

治世一万三千四十歳

以下地神ノ御代

皇祖

天照大日靈尊即位甲寅

歷年四千歳

第二世

忍穗耳尊

在位三百歳

第三世

瓊々杵尊

在位五百三十三歳

第四世

彦火々出見尊山幸初丁亥

歷年三百十二年

元年ヨリ三百年計後尊行幸海宮居三年

還甲申彦波瀲尊降誕甲午彦火々

出見尊元年己亥

在位五百八十歳

第五世

彦波瀲尊

在位四十二年壽凡六百二十歳

是ヲ以テ太古史年歴考ハ所謂地神ノ間ノ御代教ヲ

五代トシソノ年教ヲ五千七百六十七年トナセルヲ知ル

而シテコノ太古史年歴考及同書ガ右年教ヲ割リ出ス

為ニ引用シタル諸書ノ價值並ニ同書ニ置クベキ信用ノ

程度ヲ知ラント欲セバ該書ノ序文ヲ見ルニ如カズ

同書序文ニ曰ク

太古史年歴考序

我が太古ノ年歴タル其傳記少カラズト雖記紀ノ普

通本ニ於テハ記ノ彦火々出見尊ノ五百八十歳ト紀ノ

一百七十九万云々ト唯此ノ二傳アルノミ此二傳ニ於テ之ヲ

傷ケバ其標準トシテ見ルベキモノ一モ有ルヲナシ故ニ

予ハ年歴講究ニ於テ此二傳ヲ以テ天賜ノ寶鏡トス此
二傳一ハ百万位ノ大数ヲ有シ一ハ唯百位ノ小數ヲ有ス此
大差アル所以ノモノハ何ゾヤ一ハ天地開闢ヨリ算シタ
ル大數ニシテ一ハ唯一世ノ小數ナレバ也是レ予ガ多年ノ
辛苦ニ奔明セル大体也此二傳ヲ標準トシ古代ニ於テ推
歩セシテ予ニ就テ古書中ニ散逸セル傳記ヲ沙汰シ之ガ
考證ニ備ヘ朝鮮史ヲ以テ之ガ註脚トシ略ニ我思考ヲ
結了スルヲ得タリ之ヲ支那史西史ニ比較スルモ敢テ
突衝スル所ヲ見ズ殊ニ地質學ノ說ノ如キハ彌々其根
基ヲ堅固ナラシムルモノ、如シ然シテ考證ノ足ラザル
見解ノ誤レルガ如キハ予ガ淺學ノ固ヨリ免ル可ラザ
ル所也ト雖此著ニ於テ予ガ腦力ヲ減殺セシ一少々
ナラズ若シ此著ニシテ大方考古ノ一助トモナラムニハ
千歳ノ下遺憾ナカルベキモノ也

明治二十二年九月

落合直澄

トアリ以テ該書價值ヲ伺フベシ

以上調査列記シタル内先ヅソノ諸年數ノミコト付考
フルニ最初ノ二百三十四万二千四百六十七歳ト其次ノ
壹百五十年トハ其ニ極端數ナレバ我神代特ニ地神
ノ間ノ年數トシテハ首肯シ能ハザレ氏第三番目ノ年
數即十代年數ヲ曰數ト見テ更ニコレヲ年數ニ換算
シタル年數ノ六千四百十八年弱ト第四番目ノ地神
五代ノ間ノ代數ヲ代期數ト見テ一代期ヲ一千年ニ推
定シテ五代期ニテ五千年トシタル年數トハタトヒソノ

根據ハオボロナレ氏其數字ニ於テハ必ずシモ首肯シ
熊ハザルモノニアラス又第五卷目即チ神皇紀所載ノ
年數五千百年計ト最後ナル太古史年歴考ニ地神ノ
間ノ年數トシテ所載ノ五千七百六十七年トハ類ル吾
人ノ首肯シ得ル年數ナリ殊ニ太古史年歴考ニ
於テ然ルニアラスヤ

予嘗テ我肇國紀元ノ年數ヲ調査スルニ當リ未ダ
前記各年數アルヲ見聞セザル時ニ於テ唯古典ニ載
ス所ヲ直解シテ思フニ抑々伊弉諾伊弉冊ニ身分ガ
皇祖天照皇大神ニ言依シ給ヒテ六合統治ノ大權ヲ
授ケ給ヒシ時ハ神代開闢ノ當時ナレバ隨ツテ我肇國
紀元ノ年數ハ彼ノ舊約全書所載ノ年數ヤ近時學者

ガ埃及カるデヤナドニ想像スル年數ヲ凌駕スルハ勿論
ナリト又思フニ我國ハ君臣共ニ祖先崇拜ノ國ナリ
是我國ガ世界萬國ノ祖國タル所以ナリト依ツテ六經ニ
想像スラク我肇國ノ年數ハ少クモ凡ソ八千歳乃至
老万歳ニモ及ビテ世界ノアラユル古國ノソレヲ超越スベ
シト而シテ後去ル大正十四年ノ末頃在京中知人大相
凡鳥ノ厚意ニ導カレテ前記太古史年歴考ヲ讀ミソ
レニ記載ノ地神ノ間ノ年數五千七百六十七年ヲ得ソ
レニ神武天皇即位紀元ノ年數タル同年ノ二千五
百八十五年ヲ加ヘシニ八千三百五十二年(當昭和三年ハ八千
三百五十五年)トナリキ

然ル所偶々其年十月一日現在ノ國勢調査ニ現ハレタ

ル我帝國版圖内即千内地、朝鮮、台灣、樺太等ノ總計人
口數ハ八千三百四十五万四千三百七十一人タレバコレニ同年
末ノ調査ニ係ハル我委任統治下ニアル南洋群島ノ人口五
万六千二百四十六人ヲ加フレバ略々時ヲ同ジクシテ八千三百
五十二ノ年數ト略々コレニ類數ノ八千三百五十餘万ノ
人口數トヲ見聞セリ右ハ位ノ上ニ於テハ一位ト万位ト
ノ差コソアレハ八千三百有餘ノ數字ニ於テ適合シタリ
シハ如何ニモ不思議ナリレカバ余ハ是ヲ以テ自然ノ暗
示ナランカト思ヒ隨ツテ其年代數ハ正確ナルベク少ク
モ正確數ニ近キモノナルベシト信ジタリキ

同時ニ又思フニ神代ノ年數ニ関シテハ上古ニ於テスラ
調査ヲ試ミタル例アリ又近時ハ民間ノ一私人ニテス
ラ前記ノ如キ年數ヲ調査シタリシ者アリ學術ノ進ミタ
ル今日ニ於テ國家ガ國家ノ力ヲ以テ神代年數ノ大調
査會ヲ興スハ當然ノ國務トス而シテ其組織ニ於テハ單ニ
官界ノ權威者ノミナラズタトヒ民間ノ學士号ナキモノト
雖モ斯道ニ經驗アルモノハ之ニ參與セシメ當ニ歴史家ノ
ミナラズ人類學者(人種學者、言語學者)考古學者等ハ
勿論理學者、哲學者、地質學者、神道家モ宗教家モ
國學者モ漢學者モ洋學者モ苟モ權威アル者ハ國ノ内外
ヲ問ハズ之ニ列セシメアラユル世界ノ力ヲ集メテ徹底
的ニ調査ヲナシタランニハタトヒ行詰ルニ互ニ異ナリ
タル各方面ノ見地ヨリシテ集ル處必ズヤ或ル一致點ヲ
見出シ以テ世界ニ對ヒテ公表シ得ル又後世人ヲシテ容

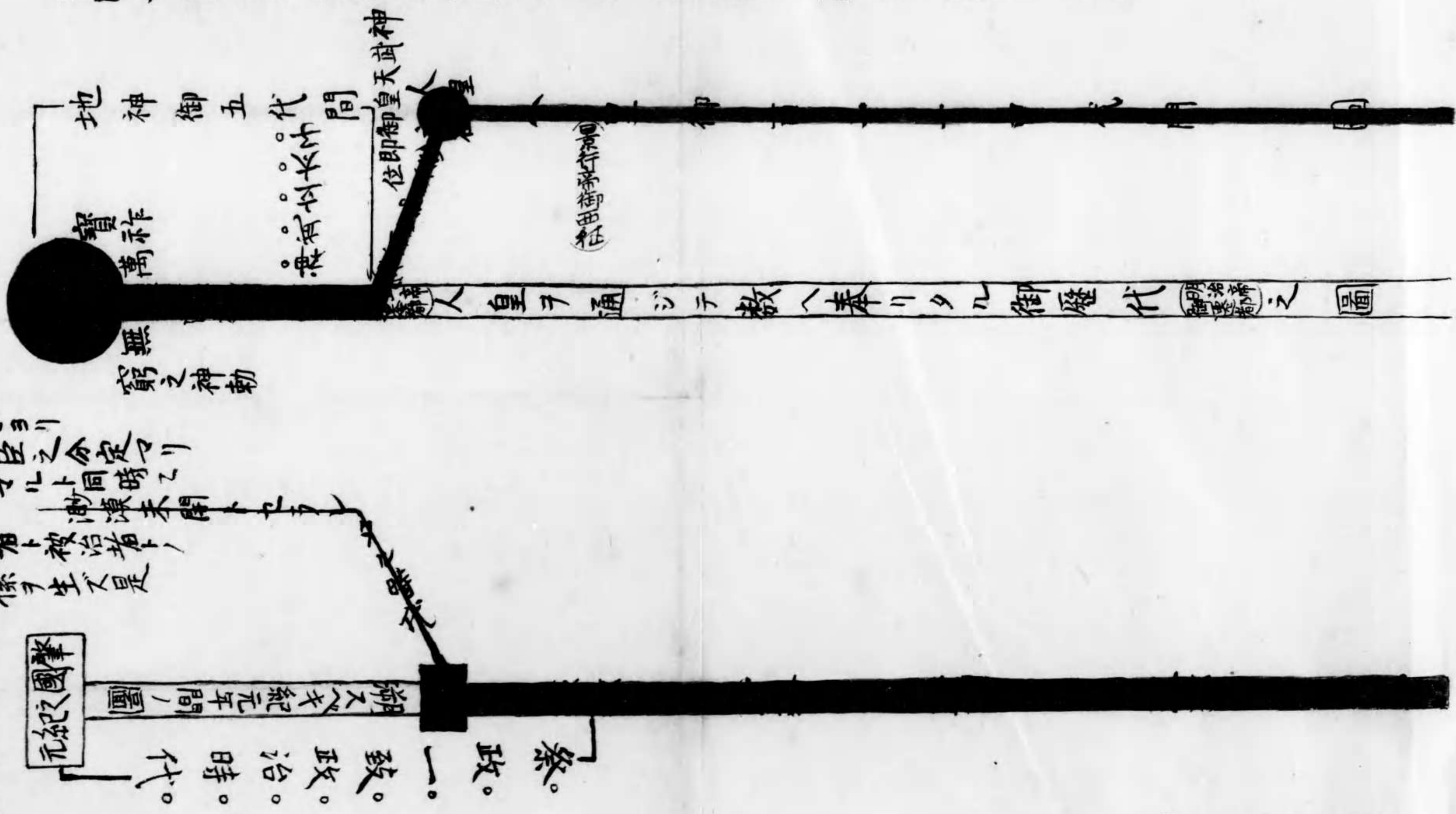
易之動カシ得ザル年教ヲ求メ得ラレベシト
次ニ御代教ノ事ニ付一言致サンニ 地神五代ノ間ヲ五
千年内外ニ見積リ奉ルハ一見御在位ノ長キニ驚ク
ヤフナレ氏彼ノ 素戔彥武甕槌六世ノ御子孫タル大國主
命ハ 天忍穗耳尊ノ御時代ニマシマシ又大國主命十一
世ノ孫遠津山岬多良斯命ハ 彦波瀲尊ノ御宇ニ居
給ヒシヨリ推シ計レバ彼ノ朝鮮ニ檀君ノ傳世通計一
千五百歳トアルガ如ク又我神皇紀ニ宇家澗不ニ合須
世ニ同名異神ノ 合須神五十一代マシタルガ如クコ
ノ五代モ或ハ著シキ神ノ御名ノミ傳ハラセ給ヒテ或
ル御世代ハ脱洩セサセ給フ所モアラセラルベク又異神
同名ニテ傳ハラセ給ヒシ御箇所モアラセラルベケレバコノ
年教大調査會ニ於テハ又同時ニ御代教ヲモ出未得ル
限リ調査シ奉ルベキモノナリ而シテ尚不明ナラセ給ハ
從例ニ依リ 地神ノ御間ヲ五代ニ教ヘマツルモ不可
ナカルベシ即チ同名異神ノ教代ヲ御一代ニ教ヘ奉ルモ
不可ナカルベシ其故ハ甚ダ畏レ多キナガラ 人皇ノ
御時代ニ於テスラ現ニ 長慶天皇ノ如キ近頃迄御世
代ヲ洩レサセ給ヒタル事アリシ御例アリ又 皇極齋明兩
朝ノ如キ 孝謙稱徳兩朝ノ如キ御一帝ヲ二代ニ教ヘ奉リタル
例アリサレバ逆ニ御二尊ヲ一代ニ教ヘ奉ルモ可ナルベク隨ツ
テ又教代ヲ一代ニ教ヘ奉ルモ不可ナカルベシ

右

調査者 松永良作

萬世一系、自皇統御太元並之肇國、紀元之関スル圖

天照大神御出御之大皇
 國之家組之肇也



人皇ヲ通ジテ教ヘ奉リタル御歷代之圖

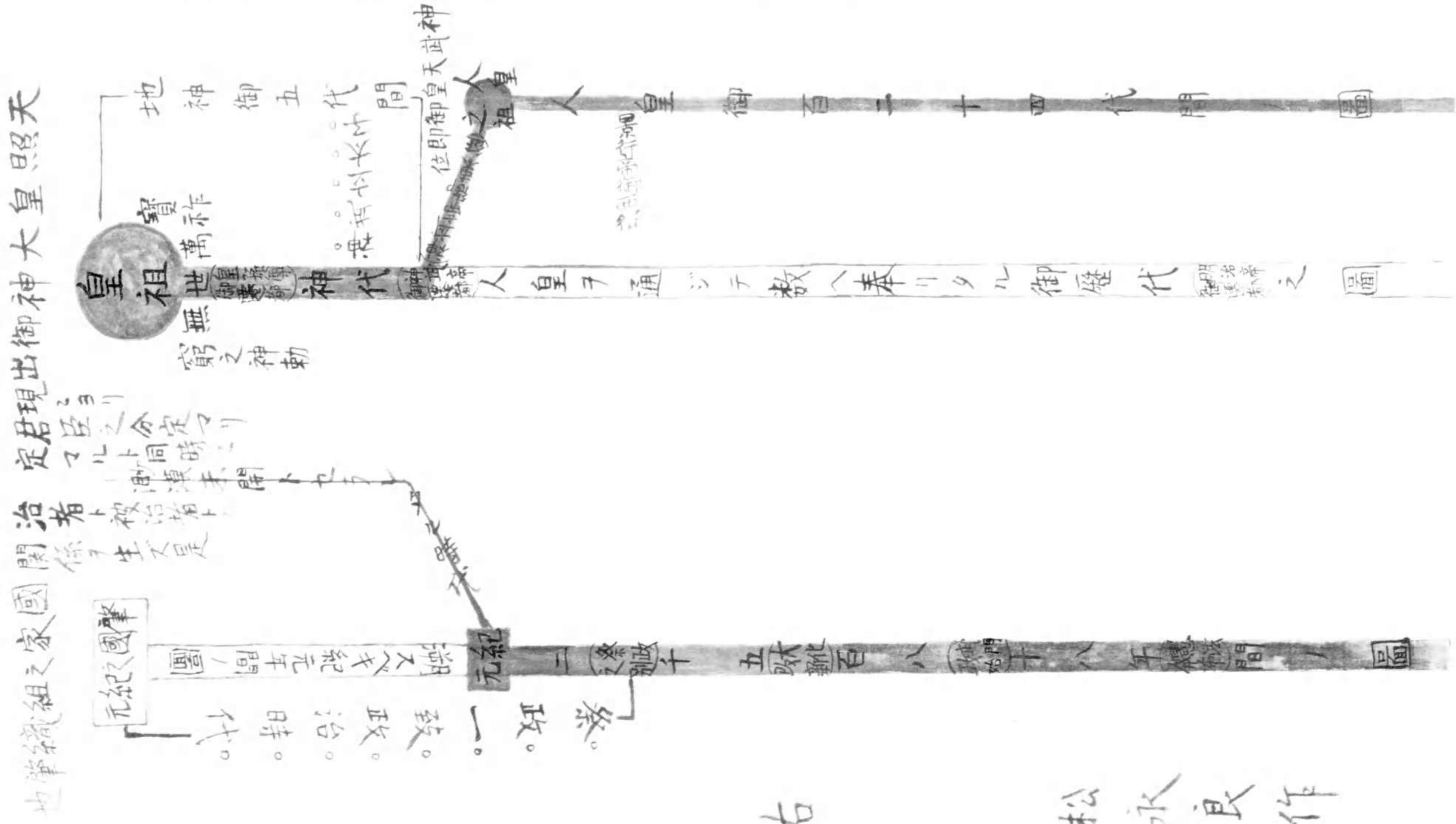
右

松永良作

裏面白紙

露光量違いにより重複撮影

萬世一系、自統御太元並之肇國、紀元之闕入る圖



裏面白紙

露光量違いにより重複撮影

右 松永良作

雜乙第一七號

起 昭四年一月三十一日

決定 年月日 施行 年月日

内閣總理大臣 了

内閣書記官長

二

内閣書記官長



昭和四年一月三十一日

内閣總理大臣

文部大臣宛

別紙皇統御代數，起算及肇國，紀元ニ関スル請願奏聞濟内大臣ヨリ

内閣

參考，爲送付，處貴省主管，件ニ付及回付候間可然處理，上回報相成度

裏面白紙

三

皇統御代數ノ起算及肇國ノ紀元ニ関ス
ル請願ノ件

松永良作

右奉呈請願書ハ奏聞濟ノ處参考ノ
為及御送付候也

昭和四年一月十日

内大臣伯爵牧野伸顯

内閣總理大臣男爵田中義一殿

雜乙一七

内大臣府